



けん玉を乗せる場所にも細かく名前がついている。日本発祥のけん玉の事を、もっと知ってほしいという想いもあるそう。けん玉の技術はもちろん、けん玉そのものについても、楽しみながら伝えている



1. スター・ウォーズコスチューミンググループの一員でもある須貝さん。桜まつりを盛り上げるため、本格的なコスチュームで参加したことも 2. 今年のけん玉ワールドカップ2022 提携りもーと会場での様子。とねりんが登場すると、本会場にいる司会者から「とねりんだ！」という声があったそう。町の認知度向上にも貢献

**利根町を自慢してほっこり**  
 現在、とねワイワイくらぶのニュースポーツ部門でけん玉を教えている須貝さん。今年の7月に開催されたけん玉ワールドカップでは、利根町文化センターが提携りもーと会場「茨城利根町会場」となり、利根町からは須貝さんを含め3名が参加しました。結果は、とねワイワイくらぶの石山肖子さんが60歳代女性第一位、糟谷かつみさんが70歳代総合第二位、須貝さんが50歳代男性第三位という

成績。糟谷さんと須貝さんは去年に続き連覇を目指していたとの事で、レベルの高さがわかります。また、須貝さんは、町のイベントにも積極的に関わり、けん玉を通して何かできる事はないかと、模索しているそうです。「町内で、もっと明るい活動ができる人や、外に出られる人が増えるきっかけになれば良いな、という思いがあります。ワールドカップの招致ができたところも含めると、だんだん形になってきて

いるかな、とは思いますが。あとは利根町に世界一がいる事を自慢してほしい。そのきっかけになれば良いなと思って活動しています」  
 須貝さんの活動の様子からは、何かに没頭して楽しむ過程や、成功した先にある大きな喜びなどが、ストリートに伝わってきます。大人になって忘れていたワクワクする感覚を味わってみたくなる。そんな魅力が、須貝さんの発信するものから伝わってきます。



利根町には現在、年代別世界1位・2位・3位のプレイヤーが「楽しく！」をモットーに活動しているそう

**ギネス世界記録を達成！**

須貝さんはNHK紅白歌合戦のけん玉チャレンジに、ギネス世界記録審査補助員として、2018年から3年連続で参加しました。

2021年にはギネス審査員ではなく、挑戦者としてけん玉チャレンジに参加。このギネス世界記録の内容は、三山

ひろしさんの歌唱中に、ステージ上でけん玉の「大皿」を成功させるというものです。2021年は126人の記録に挑戦し、須貝さんは27番目を担当。見事記録を達成し、ギネスの世界記録に認定されました。このけん玉チャレンジで、審査員と挑戦者の両方を経験しているのは、須貝さんただ一人だそうです。



1. 一番左のけん玉が、NHK紅白歌合戦のけん玉チャレンジで使用したもの 2. ギネス世界記録審査は3年務めた 3. 去年の大晦日、けん玉チャレンジの27番目を担当して見事に記録達成 4. けん玉チャレンジのギネス公式参加認定証

**子どもが社会性を身につけられるコミュニケーションツール**

けん玉を通じて、さまざまな場所で活躍する須貝さんに、けん玉の魅力について聞いてみました。

「お子さんに関して言うと、けん玉はスポーツとしてまだ発展途上の部分が大きいので、遊ぶためにはルールが必要になります。小さい子から大きい子まで一緒に遊ぶためのルールを、自分達で作る。そういう部分で、社会性みたいなものが養えるんです」

鬼ごっこやコマなど、昔は自然と身につけられていた力を、けん玉を通して身に付けてほしいと須貝さんは話します。

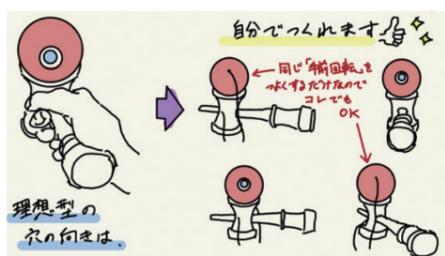
**大人にこそ笑顔になるきっかけ**

一方で、須貝さんのツイッターのタイトルには「大人けん玉専科」という言葉。大人にこそけん玉を楽しんでほしいとい



今年7月に開催されたけん玉ワールドカップ2022の本会場の様子。子どもからお年寄りまで、幅広い年代が参加した

う思いを強く持っているといえます。その理由を伺いました。  
 「日々の中で、本当の笑顔ってどんな時に出るのかなって考えると、やっぱり、何かに成功した時とか、褒められた時だと思えます。大人になるにつれて、そういう体験って、だんだんなくなっているなと思っていて。でも、けん玉であれば、成功する事も褒められる事も、簡単にできます。そういう体験は、子どもよりも大人の方にしてもらいたい。けん玉には、もっと笑顔になれるきっかけがあるんだよ、という事をより多くの大人に伝えていきたいです」  
 けん玉は、スタートの年齢に関係なく、やれば必ず上達すると断言する須貝さん。社会のしがらみとは関係のない場所で、大人も子どもも一緒になって、技を競い合ったりお互いをリスペクトする。練習会や大会で見られるそんな様子に、さすががしさを感ずるそうです。



SNSでは自身が描いたイラストで解説することも。写真、動画、イラスト、いろいろな方法でけん玉上達のアドバイスを発信